

地域支え合い推進員の取組事例1

スーパーの無い地域での野菜販売

■概要

令和6年度に開設された常設通いの場「コミュニティスペースふらっと（青木病院となり）」に集う地域住民から、「近くにスーパーが無くて困っている」等の声が挙がる。

野菜の移動販売を実施している「調布＆木島平 食の駅 新鮮屋」と連携して野菜を販売するとともに、地域包括支援センターとも連携し健康チェックを行う。

住民からも好評で、その後も「ふらっとマルシェ」は定期的を開催しており、買い物機会の創出や交流の場づくりを進めている。



地域支え合い推進員の取組事例2 喫茶店ではじめた体操の会

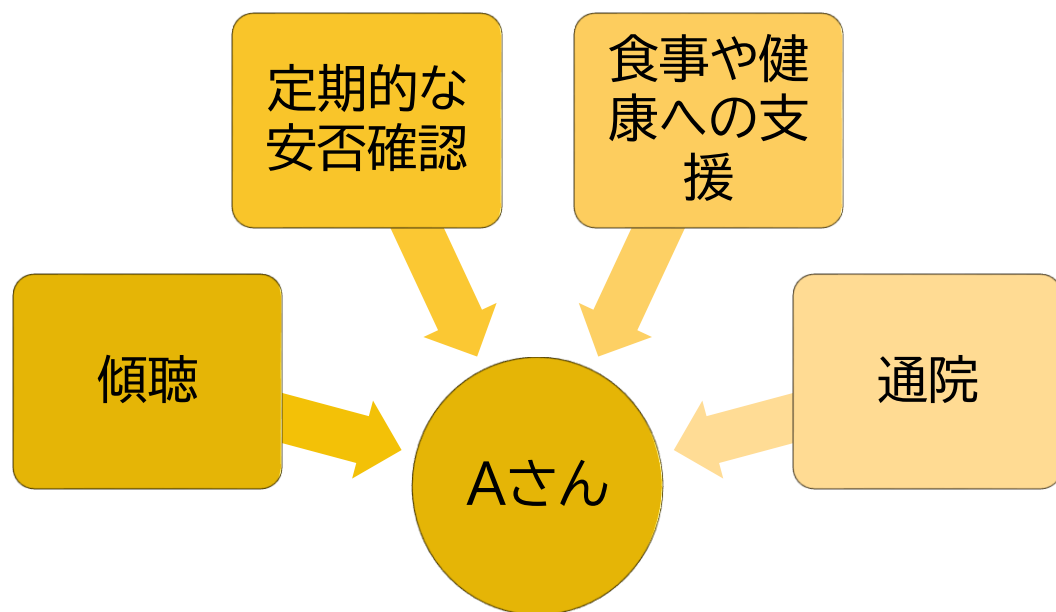
■概要

地域包括支援センター職員より「この地域に閉じこもりがちな高齢者が何人かおり、近所に気軽に集い交流できる場はないだろうか」と情報共有を受ける。

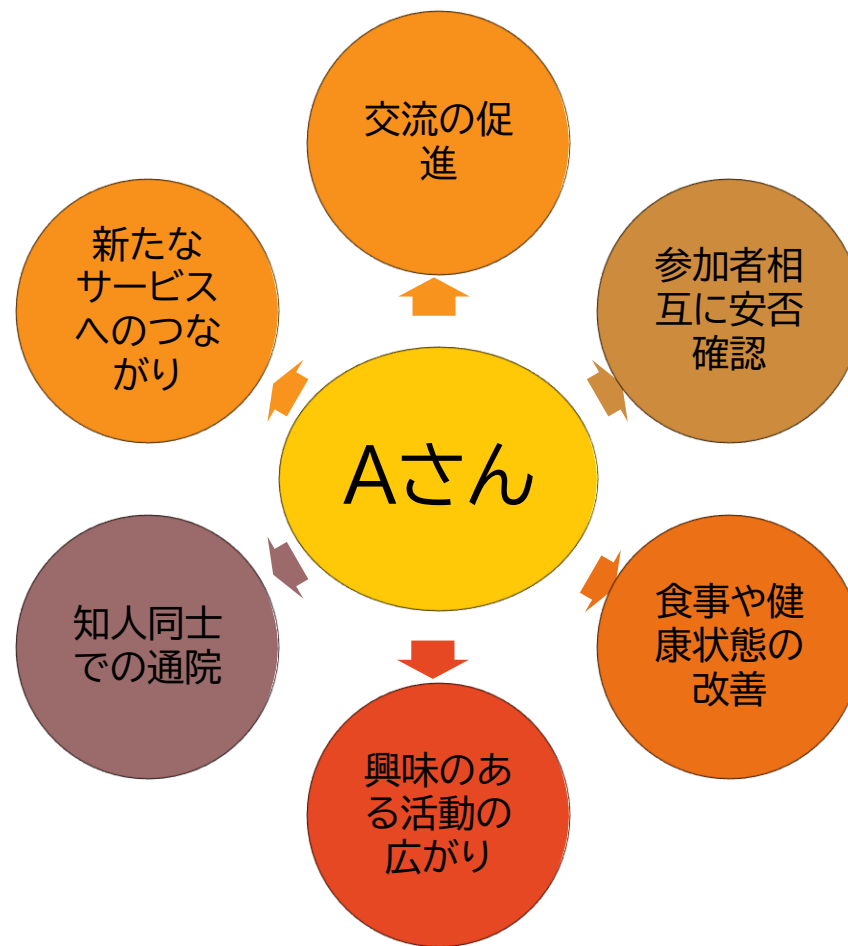
地域包括支援センターと連携し、開店前の喫茶店を活用して普及啓発講座「10の筋力トレーニングとおしゃべりの会」を開催。その後、講座の参加者を中心に「ラッキー体操会」が立ち上がり、喫茶店を会場にして継続的に活動を行っている。



専門職等による個別支援だけだと、
Aさんは客体となる



「地域で支える支援」だと、
Aさんが主体となっていく



地域支え合い推進員の業務を推進していくために

これまで

- 地域アセスメントにより、地域の強みや課題を把握
- 地域住民・民生委員・商店等と協働し、サロン・通いの場・居場所をつくり、運営をサポート
- 様々な場所にアウトリーチをし、担い手・ボランティア等とつながりネットワーク化
- 高齢者のニーズ(外出機会・交流・体操・趣味等)と、多様な地域資源をつなぐ

これから

- 高齢者の「参加支援」、「生きがいづくり」、「生活支援」を高齢者分野だけで対応することの限界
- 8050・障害・生活困窮・子育て等の複合課題
- 地域資源に「つなぐ」だけでは解決できないケースも
- 孤独や孤立、生活上の困難を抱えている高齢者が、役割を持って社会参加できるようサポート

「高齢者を含む、誰もが暮らし続けられる地域づくり(地域共生社会)」の実現と、高齢者の活躍を目指して、地域福祉コーディネーターとの一体的な運用を検討